

# 【ねがいましては】

第102号

平成10年2月24日

共和珠算学習塾

「あたりまえのこと」

今年も毎年恒例のアイススケートへ行ってきました。この行事、実は始めてから気がついたことなのですが、「そうか、新年早々、思いっきり滑るだけ滑っておけば、あとは滑る必要はないはずだ」というギャグにもなるような語呂合わせだったのです。そうなんです。検定試験にすべらないように初めにたくさんすべっておけ、ということなんです。

その当日、私は日頃、あまり公共の交通機関を使う機会がありません。バスも例にもれず。この行徳地区のバスは、うしろのドアから乗り、降りる際は前のドアから降ります。私の高校生時代使っていた都バスは、前のりうしろ降りでしたので、全くの正反対になります。という具合ですので、たまに乗る際には一瞬戸惑ってしまいます。「あれっ、どっちだっけ？」まるで田舎者が初めて都会へやってきたような感覚です。

その日、私は20数人の子どもたちを連れ、行徳の西友前からバスに乗りました。白いキップのようなものをとることになっているようなのですが、まず私はそれをし忘れました。子どもたちにも取らないでねと声をかけていました。そのわけは降りる際に一括して料金を支払うつもりだったからです。しっかりと田舎者にならぬよう集中していました。

事件が起こったのは行徳橋南詰の停留所で降りるときでした。私の仕事はそろばんを教えることなので、もちろん料金の計算も暗算で終わらせていました。が、私も「ひと」。宇宙人ではないわけで、うっかり計算ミスをし、子ども10人分の料金を入れずに支払ってしまったのです。

バスから降りた際に、「あれっ、結構安くないか？」しばらくボーっと考えていました。しかたなく歩きながら考えにふけていました。「あっ、そうか。」私は子どもたちに「あのねー、バス代少なく払っちゃったよ。」などとブツブツ言いながらスケート場へと向かいしました。

実は運がいいことに、スケート場のとなりがそのバス会社の駐車場兼事務所になっており、そのことに気づいた私は、子どもたちにひととおりスケート靴をはかせた後、すたすたと事務所へ向かいしました。窓口の方にいきさつをお話し、10人分の料金を支払うことができました。その時おそらくその事務所で一番お偉い方だと思うのですが、すっくと立ちあがり「ありがとうございました」と、大きな声でお礼をされました。

いやー、あたりまえのことをしただけなのに……。きっとそのままで支払うことなく過ぎていようものなら、毎日罪の意識にさいなまれながら過ごさねばなりません。その後、毎年スケート場へ行くたびにその「罪」が思い出されるのはたまったものではありません。

数字は数字、そうなんです。数はうそをつきません。その嘘をつかない「数」を使った授業をしているのですね、私は。だからこそ余計に正直に生きていかねばなりません。

ヒトはうそをつく生き物です。でも、数はうそをつきません。

数を敬いながら毎日を過ごすこと。新年を迎え、こころ新たに清々しく1年を過ごせるように、またスケート場に戻り、自分もスケート靴をはき、すべりました。

子どもたちには思いきりすべってもらって、どうか今年の検定試験には全員がひとりも落ちることなく合格できますように。